

支援業務課 NEWS

全国発表会への推薦経営が決定する

～平成16年度全国優良畜産経営管理技術発表会～

中央畜産会・全国肉用牛振興基金協会の主催による「平成16年度全国優良畜産経営管理技術発表会」が10月29日に東京都内で開催されます。

昨年は、本県より推薦した3事例がすべて最終審査に残り、いずれの経営も優秀賞を獲得しました。

7月29日に平成16年度の推薦事例選定のための地方審査委員会を開催し、酪農経営、肉用牛経営、養豚経営の各1事例を推薦することに決定しました。

各事例の特徴と取り組み内容は以下のとおりです。

(酪農経営)

有限会社 フジタファーム

代表取締役 藤田毅氏 (岩室村)

(南)フジタファームは、昭和55年に酪農2代目として就農した毅氏が、平成3年6月に有限会社として法人化を図ったもので、同年12月にフリーストール・パーラー方式への変更を行い経産牛70頭規模への拡大を図っています。平成10年には本物の米作りを志向する地域の耕種農家2戸と共に、有限会社「米工房いわむろ」を設立し、フジタファームで生産された堆肥を活用した有機栽培米の生産や転作田における飼料用稲の栽培・利用により地域循環型農業を推進しています。特に、飼料用稲の栽培は県内での取り組みが始まった平成12年以降、県内トップの栽培面積となっており、水稲単作地域での国産粗飼料確保のモデル的な事例となっています。

一方、自分の生産した生乳を消費者に直接提供したいという構想を、平成14年6月にジェラート専門店「レガーロ」の开店により実現しています。また、平成13年から酪農教育ファーム認定牧場となり、消費者交流にも積極的に取り組んでおり、酪農生産部門、稲作生産部門、乳製品加工販売部門の特徴を生かした連携を図り優れた成果を上げています。

(肉用牛経営)

高橋勝美氏 (松代町)

高橋氏は積雪期間が140日という豪雪地域で、25頭規模の和牛繁殖と水稲の複合経営を発展させて来て

おり、これまで品質の高い子牛を肥育農家に供給して来ました。特に、夫婦で作業分担を決めて、きめ細かな飼養管理と創意工夫により安定した繁殖成績を維持すると共に、公共牧場の積極的な利用や牧草、野草の確保に努め、収益性、自己資本比率の高い経営を確立しています。これらの取り組みを見て育った長女は現在、産業動物獣医師として診療業務に携わり、次女は後継者として就農しており、いずれも将来の畜産を担う若手として期待されています。

一方、本人は和牛改良組合や町の農業経営者会議の会長を歴任し、地域の若手農業者の育成や農業振興に努めると共に、町議会議員として地域全体の活性化にも尽力されています。このように、山間地という厳しい経営立地条件の中で自然を生かした優れた和牛繁殖経営を確立し、地域の指導者としても大きく貢献しています。

(養豚経営)

有限会社 澤口養豚場

代表取締役 澤口茂利氏 (川西町)

(南)澤口養豚場は、昭和51年に川西農業協同組合を退職し、父の経営する養豚経営に参画した茂利氏が、豪雪地域の零細養豚から企業養豚へと発展させることを目的に、平成7年に有限会社として法人化を図ったものです。その間、山間・豪雪地域のハンディを克服するために、2階建豚舎や全国でも例を見ない3階建豚舎を建設して種雌豚250頭規模に拡大を図ると共に、創意工夫や先進的技術の導入により高い経営成果を上げています。昭和55年の自らが設計した自家配合飼料への切り替えを契機として、町内3戸による生産資材の共同購入を始め、昭和60年には「妻有畜産株式会社」を設立して代表取締役に就任し、郡内9戸の養豚仲間での取り組みに発展させています。また、早い時期から地域一丸となって隔離豚舎を活用したオーエスキー病の防疫対策を実施し、PRRSの清浄地域も維持しており、本年、クリーンポーク認定事業の安心農場として認定されています。さらに、豚肉の高付加価値販売を行うため、10名で「妻有ポーク」のブランド名での販売やプライベートブランド「妻有ハーブ健康豚」として銘柄化を図っています。本人は、中魚沼指導農業士会長等を歴任し、地域農業の振興や後継者育成にも積極的に取り組んでいます。

まもなく、家畜排せつ物法が本格適用になります!!

環境保全：簡易測定器の活用

平成15年度畜産環境保全指導事業・畜産環境指導強化により、水分測定器・温度測定器・pH測定器・溶存酸素計・臭気測定器を購入しました。今回、農家指導の際に測定した結果をいくつか紹介いたします。

1. 堆肥の含有水分測定

・測定箇所

酪農6戸、肉用牛2戸、養豚4戸

・結果・コメント

最高水分80.35%

酪農経営・無通気堆肥舎切り返し方法

良く発酵しており、ほぼ完熟堆肥に近い状態ですが、生産堆肥の保管状況が悪く、雨ざらしになっているため水分が多くなっています。

最低水分27.45%

養豚経営・密閉縦型堆肥化施設(コンボ)

機械乾燥なので水分はかなり低いですが、コンボ特有の強烈な臭いがします。脱臭装置の併設、脱臭剤のこまめな交換が必要になります。

2. 堆肥化中の発酵温度測定

・測定箇所

酪農6戸、肉用牛2戸、養豚5戸、堆肥センター1箇所

・結果・コメント

最高温度62.8℃

肉用牛経営・無通気堆肥舎切り返し方法

切り返しをして間もないため、温度が上昇しています。今後も定期的に切り返しを実施して、良質な堆肥生産を継続してください。

最低温度13.2℃

酪農経営・無通気堆肥舎切り返し方法

堆肥舎に雨水が混入しているため水分が多くなっています。そのため発酵はしておらず、温度も低いまです。

3. 尿処理水のpH測定

養豚農家2戸で測定しました。測定値はそれぞれpH7.63、pH6.59で、排水基準のpH5.8~pH8.6に収まっているので、特に問題はないと考えられます。

4. 尿処理施設曝気槽内の溶存酸素量測定

・測定箇所

養豚2戸

・結果・コメント

測定値0.52mg/L

季節の変動もあり一概には言えませんが、今現在では酸素量が不足しています。最低でも1.0mg/L以上は確保してください。曝気装置の劣化や散気管のつまりによる酸素供給不足になっている可能性がありますので、日常管理を十分に行って適正管理を心掛けて下さい。

測定値1.32mg/L

酸素量は概ね良好と考えられます。

曝気により生じた泡は、表面を覆うことなく速やかに消えています。これは曝気槽での管理が適正に行われていることを示しています。

5. 堆肥化施設内の臭気測定

・測定箇所

酪農8戸、肉用牛2戸、養豚10戸、堆肥センター2箇所

・結果・コメント

臭気強度	判定尺度(にのいの目安)	戸数・箇所数
10以下	ほぼ無臭	0
11~20	やっと感知できる臭い	1
21~40	何のにおいか分かる弱い臭い	7
41~60	楽に感知できる臭い	6
61~80	強い臭い	5
81以上	強烈な臭い	3

清掃の行き届いている畜舎・堆肥舎並びに肉用牛農家においては比較的弱い傾向が見られました。逆に清掃せずに汚れている畜舎・堆肥舎では非常に強い臭いが感じられました。

やはり、悪臭低減のポイントは、こまめな清掃で清潔に保つことが基本となります。



堆肥化中の発酵温度測定